

ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.34号

平成25年1月27日

文責 長尾重範

黒鷲は 最期小さく 雪の原
老桜の 幹に蕾を 確かめつ



JASL Fall 終了

行事予定表

- 2月3日 JASL Spring 開始 父母総会
- 2月10日 新小1入学者合同説明会
ロックダウン訓練
- 2月17日 古本セール
- 2月24日 幼稚部説明会

プリンストンコース小学部一年生「冬休みのできごと」(絵日記から)

ぼくは、日本で、はじめてのお年玉をもらいました。小さなふくろにかみのお金が入っていて、とてもおどろきました。おどりました。

ぼくはきょう、お父さんとぎんこうへいき、アメリカドルでちょ金しました。ぼくは、金もちです。(かい)

ウィリアムくんのたんじょうびに、グレートウォルフロッジにいきました。いっしょのへやにとまって、ゲームをして、大きななみのプールに入りました。ホットタブにもいきました。ぼくの一ばんのおともだちといっぱいゲームであそんでうれしかったです。(かいと)

一がつ四日に、ぼくは、ディズニーマウンテンにきました。そして、ぼくが一ばんすきなのはローラーコースターでした。うんてんしゅさんがいなかった。たのしかった。おなじひに、ぼくはじぶんでくるまのうんてんしゅさんになりました。(たいら)

(裏面に続く)

銃社会の中で

国土安全保障省のビデオによると、RUN>HIDE>FIGHT とありました。音がした反対方向に逃げる、大勢で固まらない、伏せる、身を隠す、腹ばいになって動く、なども至る所で述べられています。特殊部隊の第一の目的は犯人の制圧なので、犯人と間違われぬようにすることも大事だそうです。「自分の身は自分で守る」という大前提を忘れないためにも、日頃から安全確保のための方法を考えておくことが欠かせません。

「卒業生からのメッセージ」 Jasmine Wilson

もうなんだか大昔のような気がしますが、たった14年前の1999年、私は日本の兵庫県からアメリカのNJ州に移ってきました。私はまだ11歳で、両親の仕事の事情で引っ越すという事以外、よく状況を把握しないまま、通っていた小学校でお別れパーティーを開いて頂き、最低限に必要な物を抱え、暑い夏の終わりにアメリカにやってきました。まだなんといっても子供のことで、アメリカでの生活というもの具体的想像することもできず、従ってたいしてストレスも感じずに、どちらかという日本のマンションからアメリカの一軒家に引っ越すことを楽しみにしていたように思います。

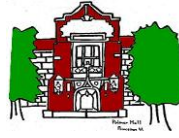
引っ越した8月にはまだ地元の学校も夏休みだったので、庭で走り回っているリスに驚いたり喜んだりして家で気楽に日を過ごしていました。初めての学校に行くことには多少の不安もありましたが、それは日本で転校するとき、新しい友達が出るかなと心配に思う、といったよくある程度の不安でした。が、実際に学校に入学するとまもなく、海を越えての転校は、そんなに甘い物ではないことを思い知らされました。

人が何を言っているのかわからない、だからコミュニケーションも取れない、そしてそれによって感じる孤独感というのは、生まれて初めての経験でした。まだ日本語学校のことは知りませんでしたので、日本語で会話できるのは母とのみ。ホームシックのあまり、図書館に行っては日本に関する本を借りて日本の写真を眺めていました。毎日憂鬱な気持ちで学校に通い、なかなか友達も出来ず、算数以外は成績が落ち、辛い思いをしていた私を救ってくれたのがプリンストン日本語学校です。入学後、早速にクラスの子供達と仲良くなれ、日本語でコミュニケーションがとれるおかげで、自分の感情を表現でき、意見を発言でき、そこは自分らしくなれる場所となりました。バークセールや運動会があったおかげで、日本へのホームシックも、かなりそこで癒されました。本来活発でうるさい生徒の私が現地校ではとてもおとなしく、いつもこそこそ隠れており、毎日家に帰れる時間をカウントダウンして過ごしていましたが、日本語学校ではその反対に、友達に1週間会えないのが寂しかったです。

2007年に高校を卒業するまで、あまり学校を休まないですんだおかげで、日本語を忘れる事がなかっただけでなく、自分の日本人としての部分をも保つ事が出来ました。(裏面に続く)

ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.34号

平成25年1月27日

文責 長尾重範

(表面から続く) ニューヨーク大学に入り、日本人とのコミュニケーションはまたほとんど無くなってしまったのですが、自分の中の「日本人」はしっかりと根をおろしていましたので、だんだん将来日本と関連する仕事をしたいと思い始めました。大学の2年生になったころから、母の経営する日本の会社でアルバイトとして手伝いを始め、卒業後正社員となって今に至るのですが、仕事では東京とのやり取りが多く、NYのスタッフも全員日本人という環境。なので、日本語学校で日本語を学び続けたことはもちろんですが、それにも増してありがたかったと思えるのは、自分の「日本人」の部分を保ってこれたおかげで、会社の日本人の方達とも、自然な交流ができることです。

最近では Hoshuko Alumni Association という、日本語補習校の卒業生の会で会長にいただき、そこではアメリカ中の補習校の卒業生達を繋げる努力をしています。現在300人以上のメンバーが所属していますが、ただ似た環境の学校を卒業した方達が入る会だということにとどめず、互いに頻繁にコミュニケーションをとり、色々な形で助け合ったりできる会にしていきたいと思っています。特に卒業生が多いニューヨークでは、一つのコミュニティとして確立していければ、日本人や日系アメリカ人にしか伝わらない表現や文化などが自然にシェアでき、メンバーにとって、私が日本語学校にいていたときに感じた安心感、もしくは開放感が感じられる場所になれるのではないのでしょうか。

HAA を通してニューヨークでの日本人のコミュニティと接する機会が増え、そして日本に帰った卒業生の方達とも繋がりを保ち続けることによって、私の会社以外での日本との繋がりがどんどん大きくなっていきます。そしてそうなれたのも、結局は全てプリンストン日本語学校のおかげです。そして卒業生のたくさんの方達が、現在日本の会社や、日本と関係している会社で働いていたり、なんらかの形で日本と関係を持っていられているのにも、やはり補習校の存在が大きいだろうと思います。

今通っている生徒さん達には、毎週日曜日を潰して何時間も日本語で勉強していることが、将来どのように自分の人生に関わるか想像は出来ないかもしれませんが、とても大変なことだし、厭に思うこともあるだろうと思います。が、続けていれば、将来必ず振り返って感謝する機会があるだろうと思いますので、諦めず、頑張ってください。そして卒業したあとは、HAA や卒業生のコミュニティに属し、大人になってもプリンストン日本語学校での経験を役に立てられると良いなと思います。

プリンストンコース小学部一年生「冬休みのできごと」 (表面から続く)

きのう、ゆきがふりました。きょうは、はれたので、いえのまえでミシェルともだち三人でそりであそびました。ぼくは、スノーボードがじょうずにできました。そのあと、おとうさんがつくってくれたハンバーガーも、おいしかったです。

(カイル)

きのう、ふゆやすみがおわったので学校にもどりました。よる十じにねたので、あさちょっとだけねむかったのです。あささむかったから学校にいきたくなかったのです。学校でひさびさにみんなのかおをみることができました。(ウィリアム)

きょうは、かぞくでローラースケートじょうにいきました。たくさんころびました。でもまえよりじょうずになったとおもいます。(かずひさ)

ふゆやすみにハワイにいきました。ハワイでサーフィンをしました。さいしょは、おとうさんとして、そのあとレッスンにさんかしました。さいしょはドキドキしたけど、じょうずになみにのりました。たのしかったです。(ぜん)

クリスマスとき、ままとわたしは、サンタさんにクッキーをやいて、ぎゅうにゅうとにんじんをテーブルの上におきました。クリスマスにあさ、たくさんプレゼントがありました。(くみこ)

きょうは、おとしだまで ガッピー(さかな)を13ひきかいました。(ひろこ)

パパとママといっしょに、「くるみわりにんぎょう」のバレエをみにいきました。ひろ子ちゃんも、いきました。とつてもすばらしかったです。(れいな)

あさ、おとうとに、サンタがきたよとおこされました。ねむたいからおこりました。でもおきました。いまにいくと、たくさんプレゼントがありました。わたしは、カメラとXボックスなどももらいました。うれしかったです。(リリー)